



## 第7章 SDGs 未来都市 御殿場の「みらい」に向けて

世界文化遺産富士山の麓、四季の風情豊かな高原都市御殿場は、富士山東麓地域の中核を担う「SDGs 未来都市」です。富士山と箱根外輪山の豊かな恵み、東京都心から車で約1時間半という好立地と交通の利便性、1,500万人を超える観光交流人口など、他市町村にはない“御殿場の力”を生かして、持続的な発展を続けています。

そんな御殿場市は、2028年度以降に新御殿場IC以東の新東名高速道路全線開通が予定されるなど、更なるポテンシャルを有しており、これを未来の発展につなげていくため、御殿場発の全国モデルとなる多くの取組を進めています。

世界共通喫緊の課題である地球温暖化やこれに伴う気候変動、国内においては、予測を上回る速さで進む少子高齢化、これに伴う人口減少、担い手不足など、様々な課題に直面する中で、“御殿場の力”を生かした挑戦が、将来を担う若者、人材、そして経済・産業を育成するとともに、豊かな環境を守り、育て、市民のウェルビーイング（幸福度・満足度）の向上と、持続可能な発展につながっていきます。

本章では、世界文化遺産富士山の懷に抱かれた御殿場市が、SDGs 未来都市として持続的な発展を遂げていくための取組、未来に向けたまちづくりについて考えていきます。

### 1. 全国モデルとなる本市の取組

#### (1) 地域の未来を創る・支える・担う人材の育成

急速に進む人口減少が全国の自治体において大きな課題とされる中、本市では人口戦略を策定し、子育て支援や働く場所の確保、移住定住促進、通勤通学支援など様々な対策に取り組んでいます。

特に高校・大学の卒業を迎える18歳、22歳の若い世代の流出が懸念される中、若い世代が、故郷に愛着を持ち、一度は御殿場を離れても、いつか戻ってきて地域を支える存在として頑張ってくれる、そんな未来を担う人材の育成が重要です。

本市はこれまでに、市内の中学生・高校生と高校生地域人材育成事業をはじめ、様々な施策で連携し、共に地域課題の解決に取り組むことで、未来を担う人材育成を行ってきました。令和6年度からは、地域循環共生圏推進協定を締結する地域の金融機関や、若者世代に影響力を持つイベントを運営する企業等と連携し「GOTEMBA MIRAI PROJECT」を展開しています。

これは、高校生を中心とした若者に、社会課題の解決に向けた取組を通じ、故郷に愛着を持つシビックプライドや、新しいことにチャレンジする精神であるアントレプレナーシップを身に付けてもらう先駆的な取組として注目を集めています。

今後も、御殿場市は、地域コミュニティ、産業、そして御殿場という都市そのものの未来を担う人材の育成に力を入れていきます。



GOTEMBA MIRAI PROJECT 2024の様子



## (2) 富士山Gコイン<sup>※1</sup>による経済活性化と市民活動の応援

富士山Gコインは、コロナ禍における市内事業者の支援と非接触型キャッシュレス決済の普及を目的に、令和4年7月に導入しました。スタートから1年半で、当初目標としていた市民の6割を超え、現在は約5万5,000人が加入、利用できる店舗数は400店を超えています。(令和7年4月現在)

プレミアム付きデジタル商品券をはじめ、ポイント還元祭、ボランティアポイントなど、各分野の施策推進のインセンティブとして活用しています。

富士山Gコインの導入は、市民生活の応援、市内経済活性化、デジタル社会に向けての効果など、予想を超える大きな成果を生みました。今後更に様々な分野で、まちづくりの基盤として活用を図っていきます。



※1 富士山Gコイン：本市オリジナルのデジタル地域通貨で、専用アプリ・カードを利用し、市内取扱加盟店で1ダラー=1円として利用できるキャッシュレス決済サービス。チャージにより繰り返し利用が可能。

## (3) 木育の推進

本市は、富士山麓及び箱根外輪山の自然環境の骨格をなす豊かな森林が、市域の半分以上を占めています。このような森林環境を活かし、SDGsの理念に基づいて、森林資源の保全・活用、地域活性化、御殿場らしい人づくり、まちづくりを推進していくため、令和4年4月に将来に向けて、木とふれあい、木に親しみ、木に学ぶ環境を整え、木を育て、木を活かし、多世代にわたって木のぬくもりを感じる豊かな暮らしを目指す「ごてんば木育推進宣言」を行いました。令和5年6月には、推進宣言を具体化した木育の道標となる「御殿場市木育推進基本構想」を策定し、「御殿場の木のぬくもりと共に」を基本理念に、5つの基本方針を定め、「木育」の推進をしていきます。

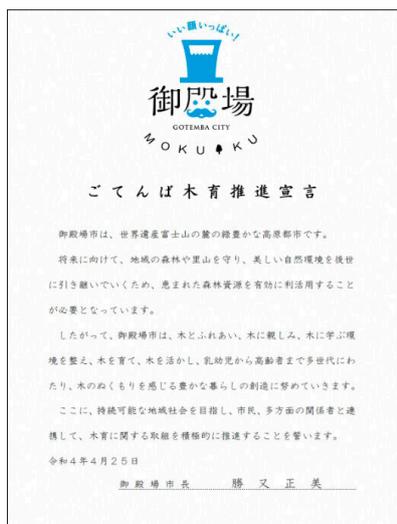




## 御殿場市木育推進基本構想

【基本理念】 ～御殿場の木のぬくもりと共に～

- 【基本方針】
- 森林や里山の保全 …………… 森林や里山を守る
  - ごてんばっ木の活用 …………… 森林資源を有効に活用する
  - 木を通じた多世代交流 …………… 木に触れ、木に学ぶ
  - 協働による取組 …………… 様々な主体が協働して「木育」に取り組む
  - 脱炭素社会へ向けて …………… カーボンニュートラル実現に貢献する



ごてんば木育推進宣言書



御殿場市木育推進基本構想



### （４）富士山東麓エコガーデンシティ地域循環共生圏と“御殿場型循環モデル”

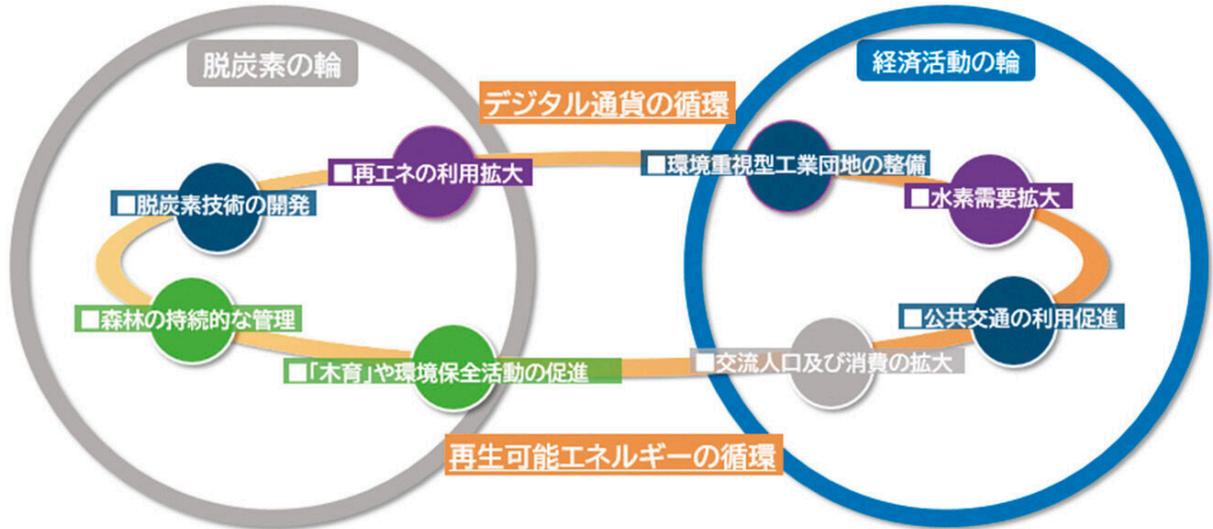
本市は、優れた環境と景観の形成及び産業・経済振興が好循環するまちを目指し、「御殿場市エコガーデンシティ構想」を推進してきました。

これを土台として、令和5年1月には、裾野市・小山町と連携した「富士山東麓エコガーデンシティ地域循環共生圏<sup>※2</sup>」が、静岡県による「“ふじのくに”フロンティア地域循環共生圏」の第1号認定を受けて、広域的な取組へと発展しています。

地球温暖化が急速に進行し、脱炭素化に向けた動きが世界的に加速する中、「富士山東麓エコガーデンシティ地域循環共生圏」は、本市が取り組む、環境と経済の好循環、木育、デジタル推進などの施策をSDGsの考え方でつないだものです。自然環境を守り、育て、磨く脱炭素に向けた取組と地域経済を好循環させ、地域活性化を促進する仕組みとして体系化しています。

本市は、SDGs未来都市として、再生可能エネルギーの利用拡大、森林の持続可能な管理、環境重視型工業団地の整備等を通じ、富士山の麓から、環境・経済・社会に貢献する持続可能なまちづくりを目指します。

※2 富士山東麓エコガーデンシティ地域循環共生圏：富士山東麓地域（御殿場市・裾野市・小山町）における新たな広域連携により、富士山麓の自然環境を守り、育て、磨く脱炭素に向けた取組と、地域経済を好循環させる取組。



《「脱炭素と経済の好循環」概念図》

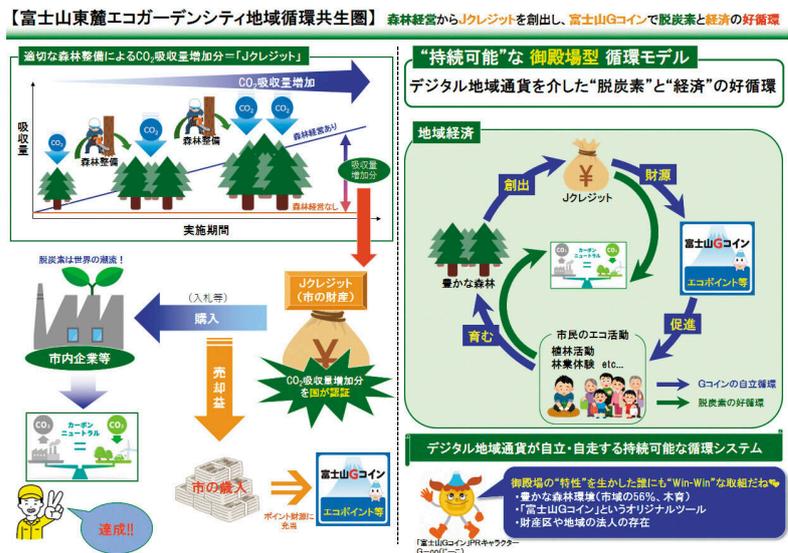
【御殿場型循環モデル】

富士山東麓エコガーデンシティ地域循環共生圏における本市の取組として、「富士山Gコイン」と国の「J-クレジット<sup>※3</sup>」を介して脱炭素と経済の循環を生み出すとともに、市民活動を応援し、社会課題の解決に資する「御殿場型循環モデル」を構築しました。

これは、富士山麓の豊かな森林からJ-クレジットを生み出し、カーボンニュートラルへの貢献を目指す企業へ売却することで、その利益を富士山Gコインの財源とし、環境に関連する市民活動へのポイント原資とするものです。

脱炭素の取組の成果であるJ-クレジットが、富士山Gコインとなって市内経済を活性化させるとともに、市民の環境活動を後押しし、更なる脱炭素を推進するという「脱炭素と経済の好循環」システムが、「御殿場型循環モデル」として、全国的に注目されています。

※3 J-クレジット：森林整備などによる温室効果ガス吸収増加量などを価値のある「クレジット」として国が認証する制度。





## (5) スポーツタウン御殿場

本市は、東京2020オリンピック自転車ロードレースの開催地、また、空手イタリア代表チームのホストタウンとなりました。こうしたオリンピック・パラリンピックのレガシーや、御殿場の魅力ある地域資源を生かしたスポーツ交流によるまちづくりを推進し、スポーツにより地域振興や地域経済の発展に寄与するため、2022年、官民連携の「スポーツタウン御殿場推進協議会」を設立しました。

スポーツ庁から指定された地域スポーツコミッションとして、富士山1周サイクリングなどのサイクルイベントの開催や、世界空手連盟や全日本空手道連盟の後援のもと、世界での活躍を目指す高校生のステップアップとなる大会として、また空手発祥国日本の高校生を通じ空手の魅力を国内外に発信する大会として、「空手道Karatedo Mt.Fuji Junior Championship in Gotemba」を創設し、イタリアとの交流を継続的に行いながら開催しています。

これらの取組は、スポーツ庁が行う「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰」を県下で唯一となる3回受賞し、スポーツ庁長官が本市を視察するなど、大きく注目されています。



▼空手イタリアチームとの交流

▲富士いち（富士山一周サイクリング）



▼スポーツ交流でまちづくり推進（モルック）

▲ちいさなFUJI（富士山トレイルランニング）

## 2. 未来に投資する4大プロジェクト

富士山の恵み、交通の利便性、そして年間1,500万人を超える観光交流人口は、他の自治体にはない“御殿場の力”です。

これを生かし、未来の御殿場市、将来を担う子どもたちのため、4つの大型プロジェクトを推進していきます。いずれの施設も魅力溢れる日本一の施設を目指して整備を進めます。

### (1) 新御殿場市立図書館

「新御殿場市立図書館」は、「日本一の富士山の麓に日本一の図書館を」を合い言葉に、多くの市民の皆様の声に耳を傾けながら整備を進め、令和8年度に開館となります。

「御殿場の伝統的な古民家」をモチーフとし、古民家が持つ特徴を取り入れ、外観は旧6町村を象徴した六角形の屋根を持つランドマークとなるデザインです。館内は内装などへ木材を活用するとともに開放的な大空間とし、訪れる全ての人をやさしく包み、知り・学び・つながる場「みくりや・ほんてらす」を基本コンセプトとしています。

図書をテーマごとに、「コマ」と言われる空間に配置し、居間のようにゆっくり読書したり、利用者が多様な活動を行ったりする場となります。子どもたちに読み聞かせができる空間や、開放感が溢れるテラス席、読書をしながら寛げるカフェ、館内から富士山が見えるビューポイント、そして笑顔があふれる交流スペースを備えています。

また、郷土資料館の機能も併せ持っており、歴史資料の実物展示やデジタルを活用した魅力的な体験型のコンテンツの設置により、市民が楽しみながら郷土を知り、特に子どもたちが郷土愛を育み、本市に住み続けたいという気持ちを育む施設としても期待されるとともに、観光客にも本市を知っていただく施設となります。

新御殿場市立図書館は、教育・文化・情報発信の拠点として、子どもから大人まで幅広い世代が楽しめる施設です。



内部の様子

新御殿場市立図書館イメージ図（外観）





## (2) 富士山木のおもちゃ美術館

木の香りとぬくもりを存分に感じられる「富士山木のおもちゃ美術館」は、「木育」のシンボルとなる施設として、令和8年夏のグランドオープンに向け、富士山樹空の森において整備を進めています。

御殿場産木材「ごてんぱっ木（こ）」をふんだんに活用し、御殿場の自然と文化と人をつなぎ、本市最大の魅力である富士山をまるごと楽しめる施設です。

富士登山を体験できる空間づくりや地元の農産物をおもちゃにした収穫体験エリア、富士山の溶岩洞窟をくぐり抜けられる木製トンネルなど、御殿場ならではのオリジナルの遊具や玩具などを配置します。

さらに木工室での木工ワークショップや、木を活かした様々な木育体験を通じて、ここにしかない遊びや学びの機能を充実させ、施設を利用する全ての子どもたちが笑顔になれる「日本一のおもちゃ美術館」を目指しています。

「富士山木のおもちゃ美術館」の整備により、年間1,500万人を超える観光交流客を市内全域に回遊させ、市内の観光施設を点から線、そして面へと形成することで、地域経済の活性化と観光振興の拠点となる施設です。



富士のもりひろば イメージ図



富士のさとひろば イメージ図

### （3）経済活性化施設（仮称：富士山の恵み産業パーク）

本市の特色である富士山の麓という最高のロケーションと富士山の恵みを最大限に活かし、全国から本市を訪れる多くの観光客に、地元の農産物や特産品をはじめ、伝統工芸品の販売、観光情報や文化・歴史の発信など多種多様なニーズに応えられる経済活性化施設として、道の駅的な要素も持つ「（仮称）富士山の恵み産業パーク」を、市内主要幹線の国道138号沿いに整備を進めています。

この施設は、地域コミュニティや住民同士の交流促進の拠点としても重要であり、訪日外国人旅行者の増加に伴う異文化交流の創出など、訪れる外国人にとっても魅力的で、御殿場の様々な魅力を日本全国のみならず、世界中に発信できる施設です。

また、観光・経済の新たな拠点であると同時に、本市の防災拠点とし、市民の安心と安全を守る、総合的な防災機能を有する施設ともなります。

これまで、本市の全ての産業の源であり、本市の発展に大きく寄与してきた富士山の恵み「水」に着目し、富士山の麓で、「水」の恵みを未来へつなぐ交流創造拠点として、年間300万人以上の来訪者を見込み、日本一のにぎわいと、子どもからお年寄りまで誰もが楽しめ、親しみや地域への愛着を育むことができる施設を目指しています。



わくわくゾーン（広場）と回廊イメージ図（案）



建物と広場のイメージ図（案）



#### (4) メッセ型施設

本市の未来を担う子どもたちが、様々な体験や学習を通じて科学技術や産業技術に興味や関心を持ち、将来の御殿場市を創造し支える環境づくりと、東富士演習場の歴史や文化を学び、機械産業遺産の保存や展示を通じて、次世代に平和や安全への意識継承を効果的に発信する拠点として、多目的に利活用が見込めるメッセ型施設の整備に向けた可能性調査を進めています。

また、大規模施設の利点を生かし、自然災害時の緊急避難所や被災地への救援物資を送る際の中継拠点、ドクターヘリの離着陸場所としての活用等、多くの市民の生命と財産を守り、防災拠点施設として重要な役割を果たすことが見込まれます。

今後も、SDGs 未来都市として、航空・宇宙産業をはじめ、先端技術や自動車・モータースポーツ、精密機械や医療・介護・福祉など、幅広い産業分野の企業・団体との連携強化を図りながら、メッセ型施設を有効活用した多種多様なイベントや展示会などを通じて、子どもたちの体験や学びの場を創出し、地域交流の中心的な施設として、御殿場ならではの魅力ある施設整備を計画していきます。



### 3. 御殿場の未来に向けて

本市は、昭和30～31年の6か町村合併による市制施行を経て、令和7年2月11日に70周年を迎えました。大きく変化する時代の中で、世界文化遺産 富士山の懐に抱かれながら、その恵みを楽しんで発展を続けています。

今や本市の観光交流人口は1,500万人を超えます。本市を訪れる方々が日々におっしゃることは、「御殿場の人は優しいね」「御殿場に来るとほっとする」ということです。首都圏からちょっと足をのばせば訪れることのできる好立地、豊かな環境、温泉、食、地ビール等の酒類など、富士山の魅力を満喫し、人の心の温かさに触れることのできるまち。富士山の恵みを存分に感じながら、訪れる誰にとっても故郷のように感じられる、それが「御殿場らしさ」なのでしょう。

今、世界共通喫緊の課題である地球温暖化、予測を超える速さで進行する少子高齢化や人口減少など対応すべき様々な課題に直面する一方で、DXや人工知能（AI）の活用、ジェンダー等にとらわれない多様で包摂的な社会の進展など、世の中は大きく変化しています。

本章で紹介した取組をはじめ、分野別計画に掲載する各種施策は、このような大きな社会の変化の中で、御殿場らしさ、富士山の麓の御殿場だからこそその強みを生かし、市民をはじめ本市に関わる人々のウェルビーイングを向上し、未来につなげていくための取組です。

また、既存の枠組みにとらわれず、近隣の自治体と連携しながら、富士山麓地域の中心として、世界にその取組を発信していくことが、さらなる本市の持続的な発展につながるとともに、新しい時代の国や地域の在り方につながっていきます。

市民の皆さんが、そして未来を担う若者たちが、故郷のことを大切に思い、誇りを持ち、夢や希望を持てる御殿場を創っていくことが求められています。



富士山とともに、未来へつなぐ